

鳥栖市の 人口増加の背景と将来推計について

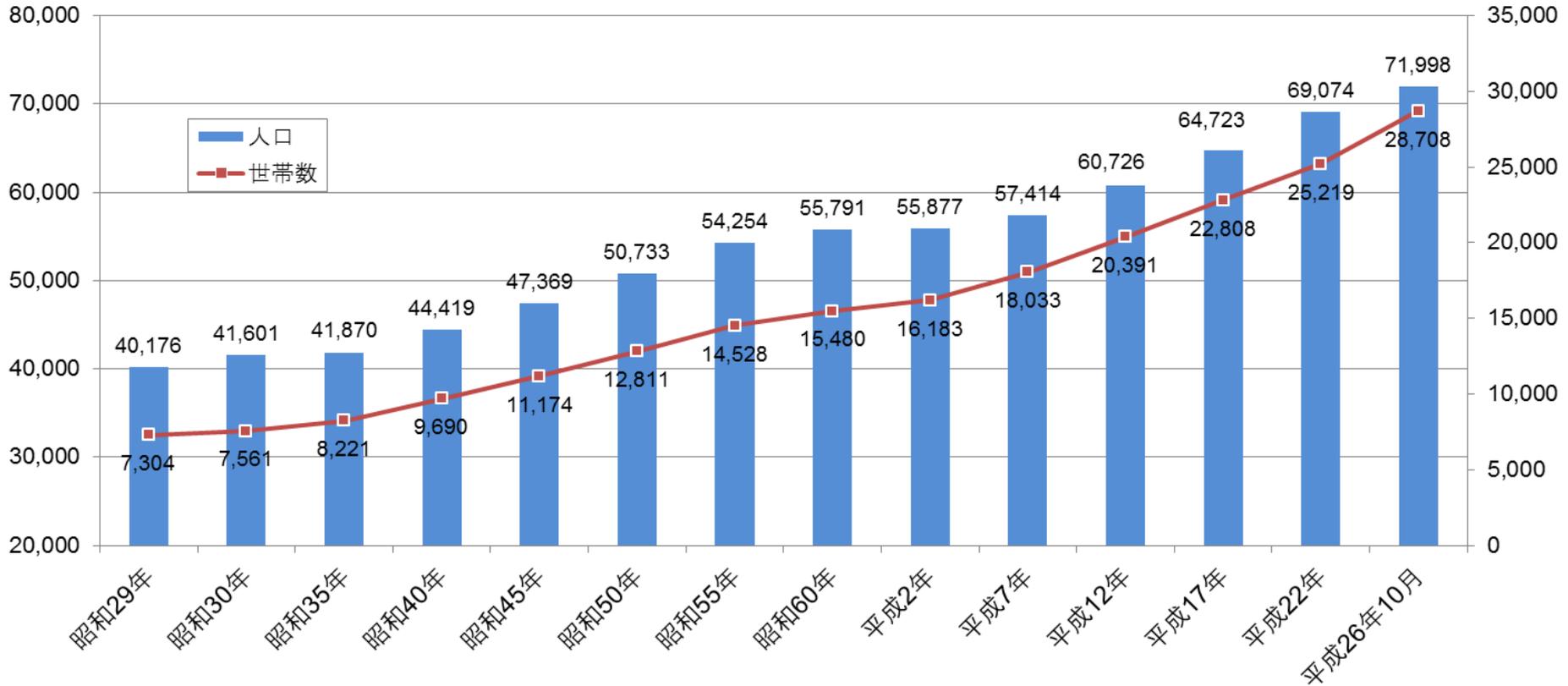
平成27年4月25日（土）鳥栖市まち・ひと・しごと創生有識者会議

- 面積 71.72km² （佐賀県全体の約2.9%）
- 人口 69,074人 （佐賀県全体の約8.4%）
71,813人 （平成27年3月末 住民基本台帳）
- ☑ 昼夜間人口比率 111.2% （九州11位 全国104位）
- ☑ 人口増加率 6.7% （九州6位 全国47位）
- ☑ 年少人口割合 16.7% （九州13位 全国64位）
※高齢者人口19.9%（全国1,556位）
- 製造品出荷額等 3,337.2億円（九州13位 全国201位）

鳥栖市の特長「人・モノ・文化の交流拠点」

- 鳥栖インターチェンジ利用状況（2012年）
→ **流入 458.13万台 流出 440.12万台**
- 鳥栖地区の保税蔵置場（2012年）
→ **28か所（国内内陸港で日本一）**
- 九州国際重粒子線がん治療センター（サガハイマツト）
九州シンクロトロン光研究センター
産業技術総合研究所九州センター
→ **最先端がん治療施設や研究機関が集積**
- 2014 J 1 リーグ サガン鳥栖ホームゲーム平均入場者数 14,137人
→ **年間約24万人が来場**
- 鳥栖プレミアム・アウトレット → **年間約500万人が来場**

人口動態の特長「増え続けている！」



市制施行から60年間で約32,000人の増加

人口増加の背景①「働く場所づくり」

地理的優位性を活かした企業誘致の推進

- ①市制施行当初から徹底した企業誘致施策を展開
 - 190社と進出協定を締結
- ②高い開発需要により幹線道路網と産業団地整備が同時に進展
 - 226ha・約168社が進出
- ③九州有数の「内陸工業都市」「物流拠点都市」へと成長
 - 県内一の工業出荷額と昼夜間人口比率

課題

グリーン・ロジスティクス・パーク鳥栖も早期に完売。今後は新産業集積エリアの分譲を予定しているものの、企業需要の高い鳥栖JCT周辺に供給できる産業用地が少ないことが課題である。

人口増加の背景②「計画的なインフラ整備」

- ①昭和初期 鉄道施設が集積する九州における鉄道輸送の拠点
→ 「**鉄道のまち**」として発展
- ②昭和中期 モータリゼーションにより高速道路網の整備が加速
→ 「**九州における陸路交通の要衝**」へと進化
- ③昭和48年 第1次総合計画策定と都市計画区域の線引きを実施
→ **都市基盤整備が加速**（市街化区域面積18.74km² 市全域の26%）
- ④人口増を見据えた給水力の増強、公共下水道の整備推進
→ **給水能力40,500(m³/日)・給水余力17,300(m³/日)、下水道普及率93.8%**

昭和中期を中心に「働く場所づくり」と並行して「計画的なインフラ整備」を推進。市単独で将来人口15万人を見据えた土台づくりが始まり、本格的な人口増加段階を迎える。

人口増加の背景③「住まう場所づくり」

「働く場所づくり」と「計画的なインフラ整備」により

「住まう場所づくり」が加速

過去25年間の主な住宅種類別の新規居住者数の推移

①新興住宅地への居住者数 → 約11,200人※1

②マンション建築戸数／居住者数 → 約1,800戸 / 約4,600人※2

③共同住宅建築戸数／居住者数 → 約5,700戸※3 / 約14,400人※2

※1 新興住宅地=弥生が丘、蔵上、青葉台、あさひ新町

※2 戸数に市の1世帯当たり人員2.5人を乗じた推計値

※3 平成5～11年建は1棟あたり4戸と仮定した推計値

(※1は公称住所及び行政区別人口の集計、※2,3は建築数からの推計値のため一部重複あり)

課題

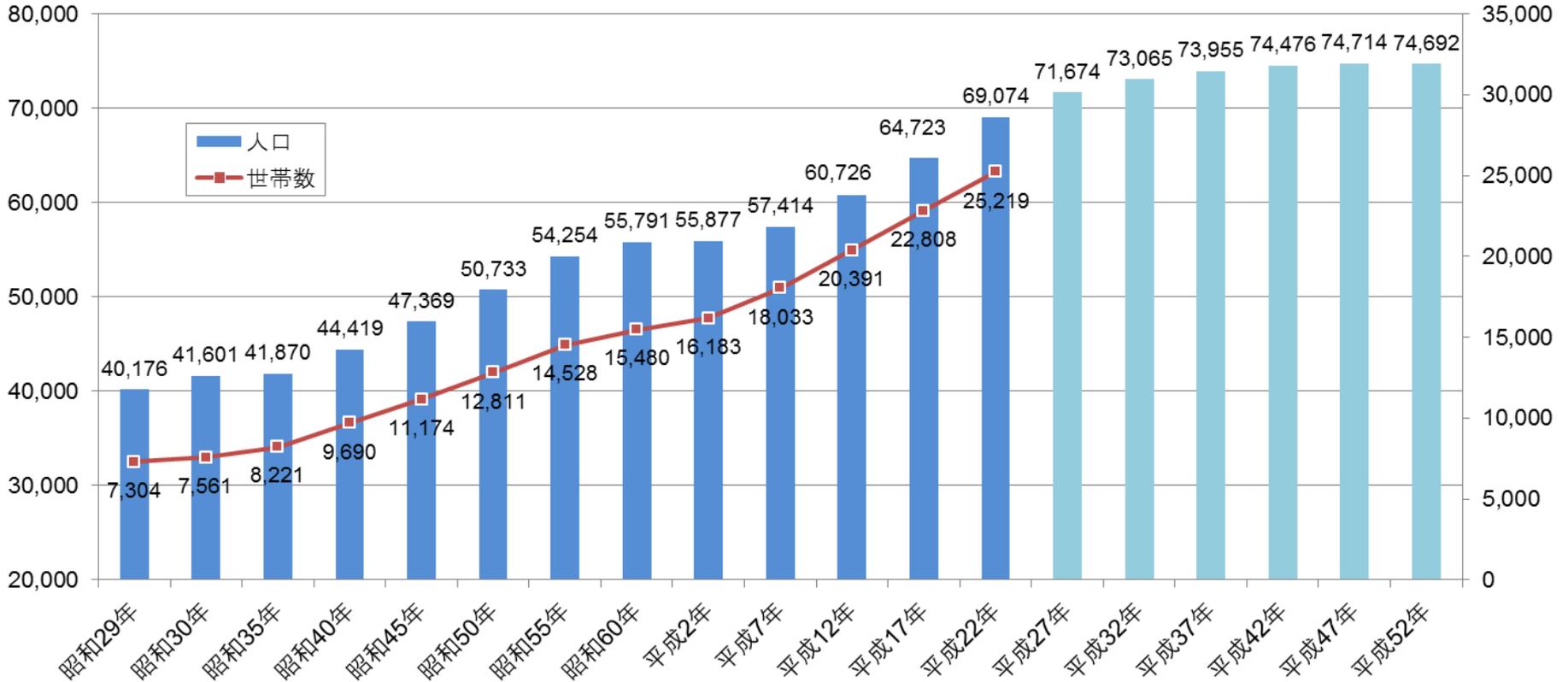
上記の3点が人口獲得の中心的な受け皿になっている。
しかし、将来的には緩やかな伸びに転じる可能性も想定されるため、今後も住宅需要の高さに的確に応じていくことが課題。

鳥栖市の将来推計人口

「2035年まで人口増加が見込まれる」

国勢調査報告書

国立社会保障・人口問題研究所推計



民間調査機関によれば、2035年（平成47年）には、社人研の推計を上回る、約83,000人になるとも予測

日本創成会議の推計に見る 鳥栖市の位置づけ（若年女性人口の動向）

■日本創成会議の推計では、全国の896自治体で、子どもを産む人の大多数を占める「20～39歳の女性人口」が2010年からの30年間で5割以上減る見込み。

■若年女性人口変化率が「増加」又は「マイナス5%程度」までの自治体で、2040年の総人口が鳥栖市と同程度かそれ以上の地域を抽出すると以下の通りであり、**三大都市圏や県庁所在地以外の自治体は鳥栖市と豊見城市のみ**。全国でも**増加率上位都市20位**に入っている。

都道府県	市区町村	社人研推計					人口移動が収束しない場合				
		2010年 総人口	2010年 20-39歳女性	2040年 総人口	2040年 20-39歳女性	若年女性 人口変化率 (2010→2040)	2010年 総人口	2010年 20-39歳女性	2040年 総人口	2040年 20-39歳女性	若年女性 人口変化率 (2010→2040)
埼玉県	吉川市	65,298	8,815	72,144	8,140	-7.7%	65,298	8,815	76,443	8,961	1.7%
千葉県	千葉市緑区	121,921	15,348	132,560	13,952	-9.1%	121,921	15,348	139,520	14,945	-2.6%
東京都	稲城市	84,835	11,389	92,826	9,820	-13.8%	84,835	11,389	97,817	10,774	-5.4%
神奈川県	横浜市都筑区	201,271	27,357	252,076	27,663	1.1%	201,271	27,357	270,271	31,020	13.4%
愛知県	日進市	84,237	11,842	98,111	10,921	-7.8%	84,237	11,842	103,147	12,056	1.8%
愛知県	みよし市	60,098	7,941	66,515	7,416	-6.6%	60,098	7,941	67,808	7,907	-0.4%
滋賀県	守山市	76,560	10,840	86,337	9,702	-10.5%	76,560	10,840	89,928	10,228	-5.6%
京都府	木津川市	69,761	9,539	80,571	9,238	-3.2%	69,761	9,539	84,958	9,896	3.7%
奈良県	香芝市	75,227	10,175	81,327	9,453	-7.1%	75,227	10,175	83,551	9,992	-1.8%
広島県	広島市安佐南区	233,733	34,226	265,489	31,098	-9.1%	233,733	34,226	275,118	33,622	-1.8%
佐賀県	鳥栖市	69,074	9,406	74,692	8,592	-8.7%	69,074	9,406	77,944	9,180	-2.4%
沖縄県	豊見城市	57,261	8,375	70,859	8,002	-4.5%	57,261	8,375	72,347	8,071	-3.6%

こうした強みを最大限に活かすべき